

**“グリーンLPガス”に向け「研究会」立ち上げ
日協、産・官・学が連携して推進、来春に報告書**

日本LPガス協会は11月12日、“グリーンLPガス”の生産技術の開発に向け、経済産業省、大学研究者、(一社)全国LPガス協会、産業技術総合研究所を始めとした有識者でつくる「研究会」を立ち上げる、と公表しました。初会合は同20日にスタート。今後月1〜2回開催していき、来年2月まで文献調査や研究開発中の実証プラントなどの情報収集を進め、3月を目途に報告書をまとめる考えです。

菅首相が10月26日、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすると所信表明。これを受けて、エネルギー分野でのカーボンリサイクルや水素、再生可能エネルギー、バイオ燃料を始めとした「カーボンニュートラル社会」に向けた技術開発が急速に進む動きにあります。分散型エネルギーを強みとするLPガスも、これらの先端技術を活用して、「グリーン燃料としての安定利活用に繋げていくため、産・官・学が相互に連携し合い、スピード感を持って技術開発を進める」(ニューズレター)としています。

●取り組み 水素と炭素の人工合成による「プロパン合成」(プロパネーション)や、欧州で取り組みが進んでいる「バイオLPガス」など、新たなイノベーションを生み出していく最新の知見や技術を整理し、関係者間での情報を共有化。これによりカーボンニュートラル社会の実現に貢献していく。

●構成員(正メンバー) 早稲田大学先進理工学部応用化学科の関根教授を座長に、資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課の橋爪企画官、家田課長補佐、産業技術総合研究所の坂西博士、全LP協の村田専務理事、田中常務、日協の吉田専務理事、調査部会長、品質部会長。

次世代スマートメーター、LPガス動向も紹介

経済産業省・次世代スマートメーター制度検討会の第2回会合が11月11日にあり、三菱総合研究所から「スマートメーター仕様検討WGの振り返り」として、ユースケース、一般送配電・配電事業者、発電・小売・アグリゲーター、共同検針、データ利用、技術の各動向が報告されました。共同検針については、「全て実証段階であり、各仕様は今後変更となる可能性がある」としたうえで、ガスでサーラエナジー、ミツウロコヴェッセル、テレメータリング推進協議会、日本ガス協会、水道で豊橋市、輪島市、東京都水道局、ガス・水道で中部電力パワーグリッド、ほか岩谷産業、アズビル金門の検討・取り組み状況が紹介されました。

LPガス関係では、①緊急時のアラーム送信/遠隔閉栓を優先して通信できるようにすべきである、②停電時の対応も考慮が必要である、とされました。全体討議で、委員からは「計量機能はあとから変更できないが、通信環境は進化し続けている」「将来の通信は7Gになる。アップデートする仕組みが必要である」などの意見がありました。

新コス、「三密おしらせシステム換気予報」発売

新コスモス電機は11月4日、エンコアードジャパンが提供する「コネクトCO2センサ」と「コネクトセルラー」を活用した3密ソリュ

ーション「三密おしらせシステム換気予報」を同10日から発売すると発表しました。換気のタイミングを可視化し、適切な換気を促すとともに、その場にいる人数を簡易計測して混雑状況を知らせ、新型コロナウイルス対策で徹底が求められている“3密”を回避します。

●機能 コネクトCO2センサは、その場のCO2濃度を測定し、数値と4段階の色で分かりやすく表示。コネクトセルラーはコンセントに差し込むだけで、コネクトCO2センサの通信モジュールとなる。

●特徴 ①混雑状況も換気状況もお知らせ、②工事不要で設置が簡単、③同等サービスと比較して低コスト、④専用アプリで詳細表示や通知も可能、⑤信頼性の高いCO2センサを搭載。

三菱商事とAW、トラック向けLNG充填設備開発

三菱商事とエア・ウォーターは10月27日、LNGトラック向けの、我が国初の可搬型「小型LNG充填設備」を開発し、北海道で実証試験を開始したと公表しました。停電時も充填を可能とする自家発電設備を搭載しており、排熱回収温水を循環利用することで寒冷地や湿度が高い地域での氷結トラブルを回避できます。

●計画 両社は商用化に向け、いすゞ自動車の大型LNGトラック1台と、イタリア製の大型LNGトラック2台を用いて、北海道実証試験を開始。設備の有効性と、大型LNGトラック実走行時におけるCO2排出量、燃料費の削減効果を確認し、事業化を検討していく。

●特徴 大型トラック1台分の駐車スペース(3.3×12.0m)に収まる。費用は従来型LNG充填所の1/2以下、燃料充填時間は軽油と同等以下の10分未満/回。最大で60台以上/日の連続充填が可能となる。

12月プロパン、CP450.00ドル、MB285.09ドル

12月積み込みCP(サウジアラビア輸入FOB価格)は、プロパン(P)はトンあたり450.00ドル、ブタン(B)は460.00ドルにすると輸入元売各社に通知がありました。前月に比べPは+4.65%、+20.00ドル、Bは+4.55%、+20.00ドルの上昇。また、米・モントルビュー(MB)の12月適用プロパン価格(OPIS社発表)は285.09ドルで、前月に比べ+5.72%、+15.43ドル上昇しました。

2020年平均価格はCPがP:397.08ドル(前年比▲8.63%、▲37.50ドル)、B:403.75ドル(▲8.59%、▲37.92ドル)、MB価格(P)は234.57ドル(▲18.00%、▲51.50ドル)となりました。

2021年特約店会議・賀詞交歓会、1月18日開催

三愛石油グループの「2021年特約店会議・賀詞交歓会」は2021年1月18日(月)、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底のうえ、三愛石油(株)と三愛オブリガス東日本(株)、三愛オブリガス中国(株)、三愛オブリガス九州(株)との合同により、東京・帝国ホテルで開催されます。

前年と同様に、第1部:特約店会議、第2部:記念講演・永年取引特約店様表彰、第3部:賀詞交歓会の3部構成で開催。第1部では、大久保宏次執行役員ガス事業部長がガス事業部門の「2021年基本方針」を発表。続いて、三愛オブリガス各社社長からそれぞれの地域市場の動向を踏まえた「2021年の重点方針」が打ち出されます。

配信ご希望の特約店様はメールアドレスを下記URLよりご登録ください。

※すでにご登録いただいている特約店様は不要です。

※ご不明な点は、オブリ担当セールスにご連絡ください。

【登録フォーム】<https://obbli.info/obbli/>

※パソコン、スマートフォンからご登録ください。

**Obbli**